刻まれた梵字には、金剛界大日如来 𑖨𑖿 （パン）胎蔵界大日如来 𑖀 （ア）などの種子が多く、阿弥陀如来 𑖩𑖽 （キリーク）などもみられます。ここある板碑群の中には、昭和33年の基盤整備にあたって、土中に埋もれていたものを寄せ集めたものもあります。これらは文化6年（1809）菅江真澄が「ひなのあそび」のなかに「小池石仏庵」の石碑として記録され図絵が描かれています。
風化がはげしく年号のわかるのは10数基ですが、すべて南北朝時代の年号となっています。その他不明のものも梵字の形態などから、南北朝時代のものと考えられます。

八郎潟町の板碑が小池地区に集中しているのは、石材の豊富な森山や高岳山に近いこともあります。これらの板碑群は私達八郎潟町の村落の発生年代や、政治、経済、文化の変遷などをうかがい知ることができる貴重な中世の文化財であります。
また、ここから東南にわずか500mほど行った八郎潟町と五城目町の境界線上には五城目北遺跡があります。平成11年度の発掘調査により、縄文時代・平安時代・中世・近世の遺物が出土したほか、掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・土坑などが検出されました。また中世には集落が営まれていたことが判明しています。

“菅江真澄も歩いた歴史の道「羽州街道」”から

NTT東日本秋田支社

こいち【五城目町小市（こいち）村】

〔中世～近世〕戦中期から見える村名。出羽国秋田郡のうち。初見史料は、天正19年1月17日豊臣秀吉が秋田実李の当知行を安堵した朱印状写に、「西村・漆原・岡本・小市村」561石余とある（秋田家文書）。「慶長6年秋田家分限帳」では、栗沢弥五郎の代官所支配地に指定された湖東通14か村中に、小市村57石余と記載。小村ながら1村とみなされていた。

秋田氏一族の安藤兵部が拠る岡本城の膝下、森山の西麓に位置する岡本村と隣接する村であったらしい。岡本村の集落を中心に、森山山麓を縫うように浦城と五十目（いそのめ）城を連絡する主要路があった。小市の村名は、岡本城下の市によるか、山越えの路の越路によるか未詳。馬場目川の上流域山間部にも、近世に馬場目村枝郷となる恋地村がある。しかし上記の小市村は、後者ではなく前者に属する。

近世秋田藩政下では、当初は岡本（岡本新田）村の枝郷に包摂されていたとみられるが未詳。宝永～享保年間の郡村改めの際、岡本恋地（岡本恋路）村として村名を現し、19世紀に岡本恋地村が小池村に統合されたとき，枝郷恋地村を称したらしい（秋田風土記）。近世での詳細は未詳。現在は小字名にも伝わらない。

1980.3出版　角川日本地名大辞典　5　秋田県

こえば【越場】

渡船場跡付近。写真向かいが一日市側です。馬場目川を渡って一日市・大川（現五城目町大川）をつなぐ渡船場は、現在の「龍馬橋」から100mほど下流でした。「領中大小道程帳」天和元年（1681）によると、大川村から一日市村に至る途中の馬場目川は、その川幅が42間（約76m）あったと記されています。

一日市村側の渡船場は下川原で、ここは「コエパ」・「コエバ」と呼ばれており、「越場」が語源と考えられています。

“菅江真澄も歩いた歴史の道「羽州街道」”から

NTT東日本秋田支社

こさか【浦大町小坂（こさか）】

小坂

「コ」は小山、「サカ」は傾斜地の意。

1987年三浦鉄郎著 新編･秋田の地名

小坂